

## メサコリン気道過敏性試験と患者背景との関連の検討

西辻 雅、谷まゆ子、松岡寛樹、大倉徳幸、新屋智之、出村芳樹、西 耕一  
石川県立中央病院 呼吸器内科

**【目的】**メサコリン気道過敏性試験(BHR)は気管支喘息(BA)、咳喘息(CVA)、アトピー咳嗽(AC)などの鑑別に用いられることが多い。今回我々は咳嗽、喘鳴などの症状と、過敏性の程度などの関連についての検討を行った。

**【方法】**2011年1月から12月にBHRが施行された125名を対象とした。PC20で12,000  $\mu\text{g/ml}$ 以下を気道過敏性陽性とした。咳嗽、喘鳴などの検査施行理由ごとにPC20の平均値を比較検討した。さらにBA、CVA、ACの疾患ごとに気道過敏性陽性となる頻度を検討した。

**【成績】**BHRが行われた目的の内訳は、BAフォローが50名、BA疑いが6名、咳嗽(CVA、AC疑いなど)が64名であった。各群のPC20は3,344、14,693、12,850  $\mu\text{g/ml}$ であり、BAフォロー群での気道過敏性が有意に亢進していた。疾患別にみた場合、BA、CVA患者はAC患者と比べて有意にPC20が亢進していた。PC20が陽性となる頻度は全体で59.2%、BAフォロー群で80.4%、咳嗽群では43.8%であった。

**【結論】**咳嗽で受診した患者では、約40%で気道過敏性が亢進している可能性がある。